

音楽メディアユーザー調査

周 芷蘭

21世紀以来、音楽市場の状況の変化は激しいです。CDの販売は激減していて、それに対してライブ市場はどんどん拡大しています。それ以上、スマホ時代に到来で音楽業界の環境もかなり変わりました。実際のところ、普通の消費者は音楽業界に一体どんな影響を与えて、そして受けますか。それで、このクラスの生徒にアンケートしました。これから、そのアンケートの結果について報告します。

まず、“1週あたり何時間音楽を聴きますか”という質問をしました。これに対して、“12時間以上”と答えた人は5人で、“4～7時間”は4人で、“2時間以下”及び“全然聴かない”はいませんでした。

次に“この一年間に、音楽を聴くために、音楽商品を購入したり、お金を使ったりしたことがありますか”と聞きました。“ある”と答えた人は5人で、“ない”と答えた人は7人でした。半分半分で、どうちもそれについての理由を聞きました。お金を使う理由は“アーティストが好きだから”や、“音質が良いものを入手したかったから”や、“お金の余裕ができたから”などでした。実はもともと“アーティスト／楽曲が話題になっていたから”と“楽曲／映像が気に入ったから”の選択肢も用意しましたが、選択した人はいませんでした。お金を使わない理由は主に“PC・スマホ等で利用できる無料の音楽配信サイトや動画配信サイト、アプリでもう満足するようになった”と“インターネット上か

ら無料で楽曲をダウンロードしているから”この二つでした。“現在持っている楽曲で満足している”と“音楽に対する興味はあるが、そもそも音楽にお金を使おうと思わない、または思わなくなった”を理由として選んだ人がいませんでした。

音楽の聴く手段について、最も人気がある手段はYouTube でした。“Spotify などのストリーミングアプリ”も“無料ダウンロード”も多くの人に選ばれました。音楽ジャンルにはR&Bやクラシックは人気があります。その他を選んだ人はJポップ、kポップ、フォークソング、ラップ、インディーミュージックなどのジャンルを書きました。

さらに、“この一年間に、コンサート・ライブなどに参加したことがありますか。どんなコンサート・ライブですか”と聞きました。“アーティストの有料コンサート・ライブ”と答えた人は4人で、“無料のコンサート・ライブ”は二人で、“参加したことがない”は6人でした。

最後に、ハイレゾについて聞きました。そして“聞いたことがない”を選んだ人は4人で、“聞いたことはあるが、どんな物についてはよく知らない”は一人で、“聞いたことはあるが、利用したことがない”は4人で、“既に利用している”は3人でした。

以上はアンケートの結果です。まず、音楽ジャンルについての結果に意外を感じます。R&B の圧倒的な人気以外、クラシックの人気は予想できませんでした。

でも実際に見ると、みんなの答えは大体現在の音楽業界の現状を表しています。例えば、音楽の聴く手段について、米国の楽曲の購入方法をシェア別にまとめると、2003年はCDシェア94.8%に対して、2013年は35%だそうです。そして、調査の結果は同じで、CDを聴く人は三分の一です。それ以外、スマホの普及、及びインターネットの普及により、iTunes等のダウンロード型配信サービスが急速にシェアを上げました。また、YouTubeなどの動画サイトや、Spotifyなどのストリーミングサービスの登場で、無料で音楽が聴けるし、ストリーミングサービスでは、月額料金を支払い、好きな音楽が聴き放題になれます。普段から音楽を聴く人に対する「お得感」が感じられて、シェアの拡大は必然とも言えます。

無料で音楽を聴く層が以前より多く増えました。なぜなら、無料動画配信サイトやストリーミングサービスの存在が大きくなりましたから。それと結果中のお金を使わない理由は同じことです。一方、お金を使う人達にとって、アーティストに対しての愛がなければ、お金を使い続けるのが難しいでしょう。

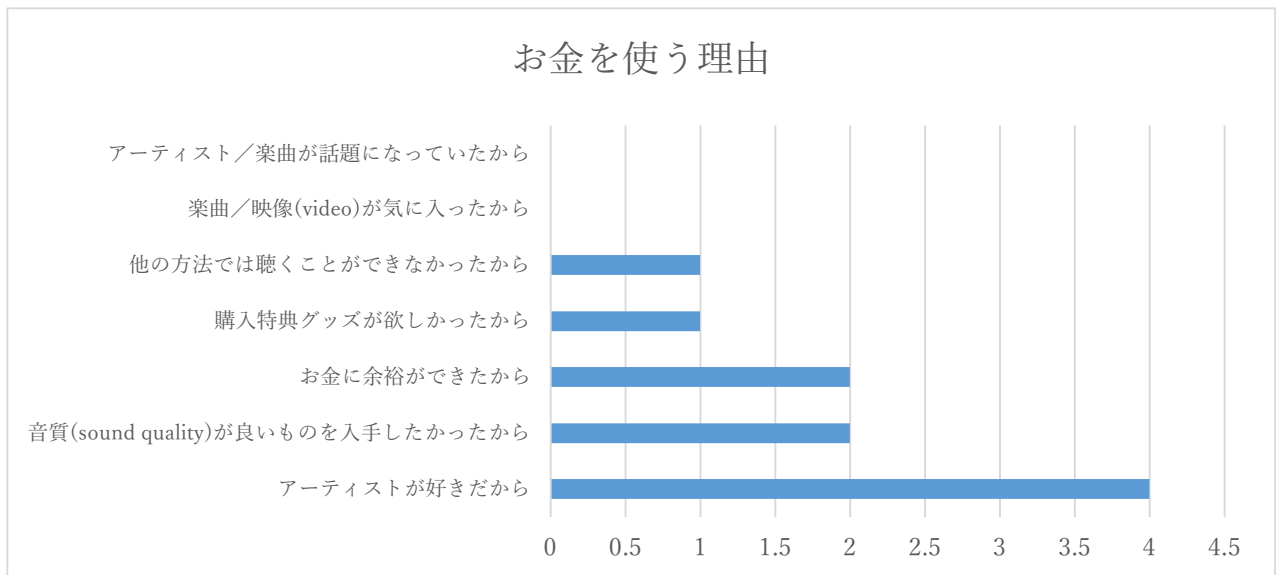
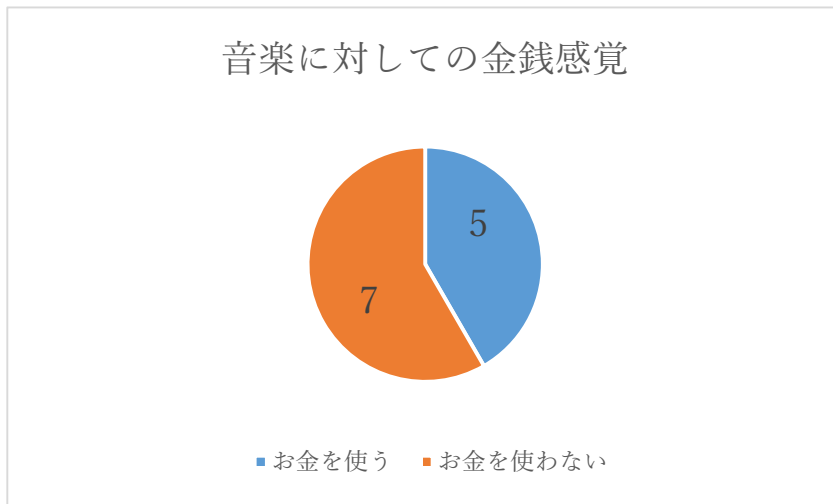
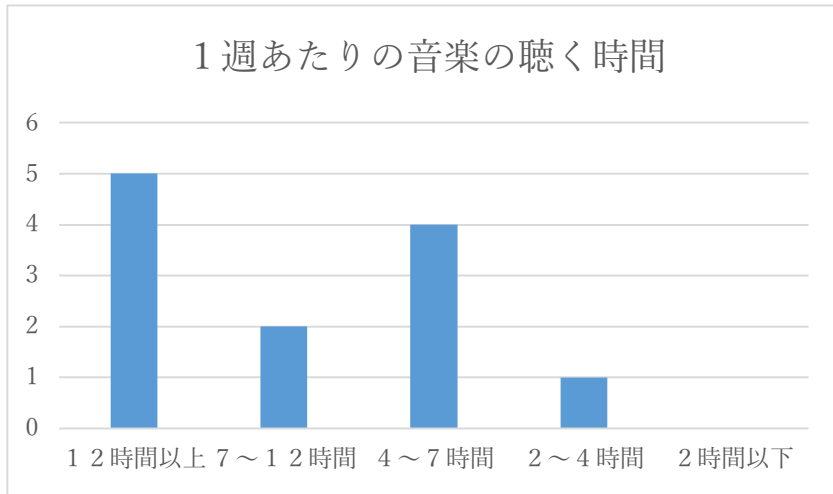
また良く言われていることですが、近年ライブ市場は拡大傾向にあって、ライブに足を運ぶお客さんが増えてきています。インターネットで画面越しの情報は直ぐ手に入るようになったからでしょうか、生の熱気・体験を求めるニーズが高まっているとも言えます。でもこの調査の結果によると、半分未満の人だけライブに行きました。

最後に、ハイレゾリューションオーディオの普及の低下も意外です。ハイレゾは、CD-

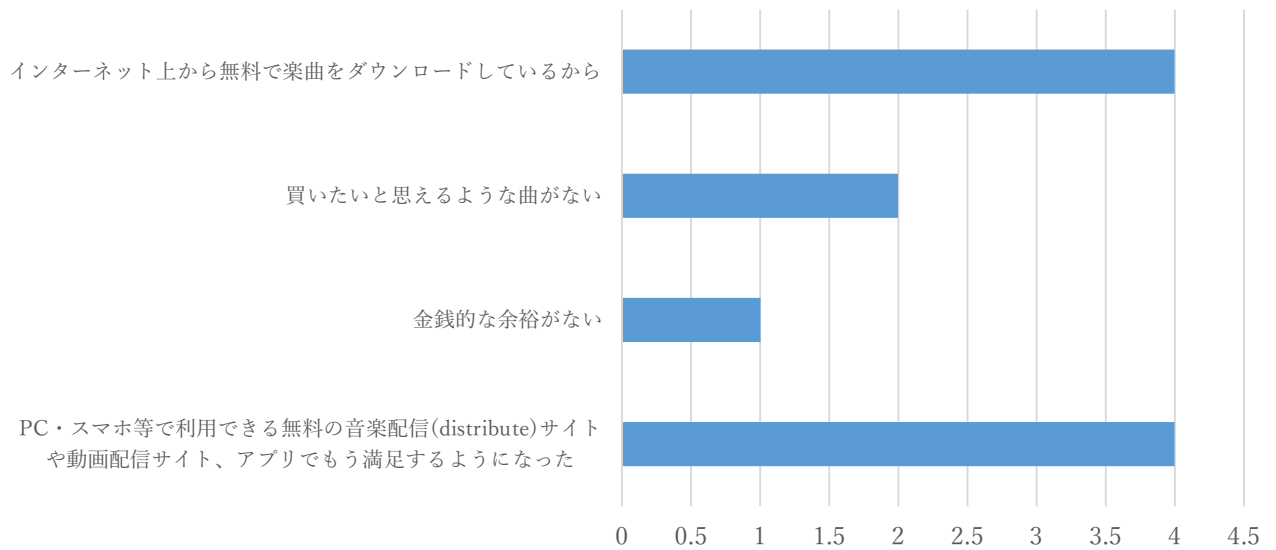
DA のサンプリングパラメータ (44.1kHz, 16bit) よりもレゾリューションが高い (デジタル) オーディオのことです。アーティストによっては楽器の音色に個性やこだわりを感じさせ、その細かなニュアンスがハイレゾだとより正確に出ることがあります。しかし、主要手段が YouTube などを考えてみると、ハイレゾの利用可能が少なくなってしまう。

これで発表が終わります。ありがとうございます。

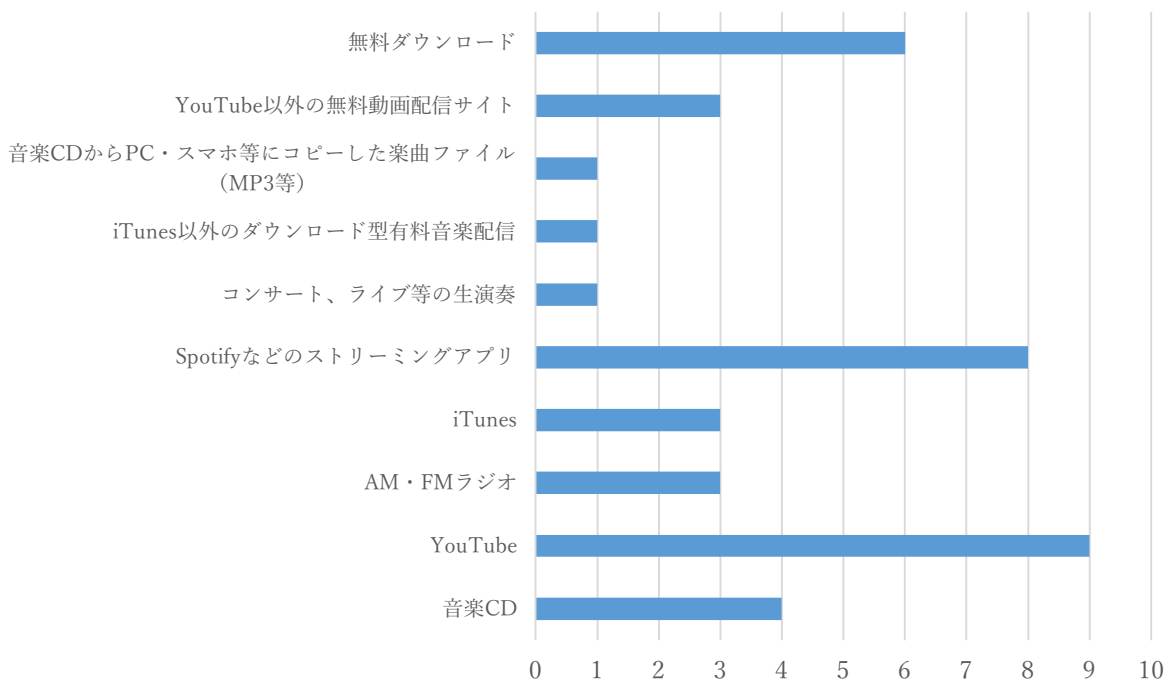
グラフ：



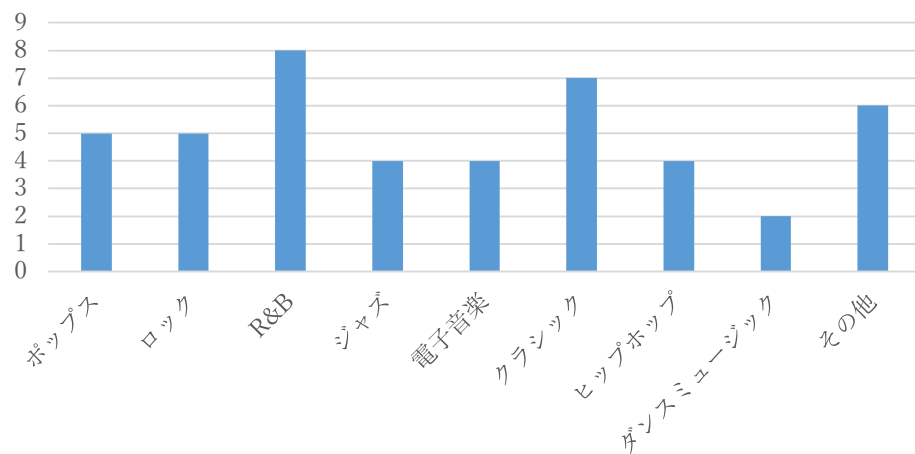
お金を使わない理由



音楽の聴く方法



普段よく聴く音楽ジャンル

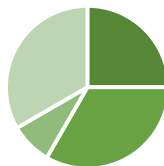


コンサート・ライブなどの参加状況



- アーティストの有料コンサート・ライブ
- ミュージックフェス
- 無料のコンサート・ライブ
- 参加したことがない

ハイレゾについて



- 既に利用している
- 聞いたことはあるが、利用したことがない
- 聞いたことはあるが、どんな物についてはよく知らない
- 聞いたことがない